



2020年冬号／通巻135号／2020年12月発行

私とMLCとの出会い

私とMLCとの出会い。それは20年前に遡る。マリア会発祥地ボルドーでの、恩師の神父様を訪ねての滞在。当時私は、仕事やプライベートで多くの問題を抱え、今思えば、良く乗り切れたなと思うほどの激流の中にいた。

そんな殺伐とした気持ちのクリスマスに、ボルドーの神父様から届いたクリスマスカード。それは、ボルドーへのお誘いだった。

年が明けた1月末チケットが安いその時期に、ボルドーへ飛んだ。丁度シャミナード神父様命日直後で、信徒から寄せられたチョコレートやケーキや美しい花々に溢れたマドレーヌ聖堂に着き、荷物を解く暇もなく、師の案内で、シャミナード神父の墓参りにでかけた。ボルドー市内を神父様の健脚に漸くあわせながら、元教会の映画館やラムルス嬢が建てた女子の施設などを、まさに足早にたずねた。



その後滞在中シャミナード師の生い立ちや革命の傷痕、革命前中後どうやって布教活動をなさったか等、足跡を辿りながら、マリア会の歴史にふれた。日曜には、用務係の陽気なブラザーが運転する小さなルノーにすし詰め5人でミュシダンやペリゲーまで出かけた。車中始まったフランス語のロザリオの祈りのお陰で、終わる頃にはフランス語の祈りを暗記することができた。山上に聳える高い天井のサンフロン教会には、見覚えのある大きなシャミナード神父様の肖像画が掛かっていた。生家や所縁の聖母像をたずねながら、その原点は、信徒の会だったことなど、その時まで知らなかったMLCの歴史などを教えていただいた。たまたま、ローマ本部から、列聖資料作りに派遣されていたアント

MLC 教育部長 白浜 清昭

ニオ神父が、同時期に滞在しておられたため、ご一緒させていただいたことも幸運だった。また、マリア研究の第一人者でもあるアルムブルステル神父と、毎日のミサの前後や、食後に直にお話を伺う好機会にも恵まれた。とても優しいお人柄で、私の拙いフランス語に丁寧につき合ってくれた。

朝5時の祈りから始まり、寝食修道院で過ごした1週間は、とても貴重な経験をさせていただき、その時覚えたフランス語の主の祈り アベマリアやクレドは、今も忘れず、唱えるたびに、思い出が蘇る。お招きいただいた恩師には感謝しかないが、私には、最後の召命だったと思うとそれにお応えできなかった自らの弱さに、今は複雑な思いがある。

このボルドー旅行以後、シャミナード修道院の水曜夜の祈りやソダリティー例会を通して、母校暁星以外のマリア会神父様や、女子修道会の素敵なシスターの皆様 MLC ソダリティーの先輩諸兄といったマリアニストファミリーの各枝の方々との交流が始まり、慌ただしい生活に安らぎの時を作り、現在に至っている。当時アルムブルステル神父から頂いた多くの本を少しずつ読みながら、教会憲章講座や黙想会に参加するなど、まだまだ自分の勉強の段階だが、革命時代の信徒会活動のように、少しでもこの不安な社会へ恩返しと貢献できれば幸いです。日々である。

マリア会のニュース

1. 三人の有期誓願者は、シャミナード修道院に派遣されました。
2. コロナ禍のため、「マリアニスト・スクール連盟総会・研修会」、「地区集会」等は中止。
3. 市瀬幸一地区長の修道院訪問は実施されます。

三人の初誓願者の感謝の言葉

『志願者から初誓願までの長い道』

洗礼者ヨハネ レ・ゴック・ドアン

私が、マリア会と出会ったのは、2012年6月のことでした。その後来日する迄の2年間は大変なことが沢山ありました。ビザの取得の関係で直ぐ来日できませんでしたが、日本に来てからももう6年半が経ちました。日本語の勉強と日本の文化に馴れるのは厳しく、生活に慣れるのはもっと大変でした。嬉しいことや辛いことも沢山ありましたが、全てを乗り越えて初誓願宣立に到達できました。これは、いろいろな出来事を通して与えられた神様の恵みとみ摂理の賜物だと確信し神様に感謝いたします。またマリアニスト家族の皆様にも、長い間応援し、お祈りくださったことに感謝申し上げます。私は、神様の恵みと皆様のお祈りをいただきながら、マリアニストとしての新しい生活を頑張りたいと思います。

『感謝』

ペトロ レ・ヴァン・シン

私の誓願式にご参加くださり、喜びを共にしてくださったことを心より感謝申し上げます。2020年10月2日（マリア会の創立記念日）に、初誓願宣立を無事に迎えることができましたことを深く感謝いたします。皆様のお祈りは、私の支えとなりました。どうぞこれからもよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

『感激のうちに』

アントニオ ハム・ヴァン・カウ

神様は、私を招きながら「あなたは、とても大切な人です。あなたを愛しています。あなたに期待しています」と言われます。イエス様は、「あなたが私を選んだのではなく、私があなたを選んだ」と私たち一人ひとりにおっしゃいます。これらの言葉が私に喜びを与えてくれました。イエス様が私を見つめておられる。その瞬間、初誓願の感激の気持ちが込み上げてきました。10月2日（創立記念日）マリアニスト家族の皆様の温かい雰囲気の中で、志を同じくする人々と一緒におられる恵みを感じています。この神様の計り知れない恵みと皆様方の助けに支えられ、今の自分があるのだと最近しみじみ感じております。神様と人々に愛されている体験をもって、皆さまに奉仕できる日を心待ちにしつつ、神様の導きに自分を賭けて歩んで参ります。



◀右から

アントニオ ハム・ヴァン・カウ
洗礼者ヨハネ レ・ゴック・ドアン
ペトロ レ・ヴァン・シン

信仰のお恵み マリア・レティチャウ/テレサ・ファンティトニョン

去る1月23日から6月3日までフランスとイタリアで終生誓願準備コースに参加させていただきました。コロナウイルス感染拡大のため最初の予定と違い、9月の半ばまでヨーロッパに滞在しました。この研修会を通して両創立者の足跡を辿り、マリアニストの精神とカリスマをより深められたことは本当に大きな喜びです。

まさにこの機会はこれからマリアニストの奉獻者として一生涯を捧げる私たちのために意味深い糧となりました。私たちを伴し、お祈りで支えてくださった方々に感謝しています。この間に頂いた数々のお恵みの中から、皆さまに一つ分かち合いたいと思います。コロナウイルスはごく小さいものですがたくさん

人の命を奪い、全人類を怖がらせるほど力を持っています。私たちはコロナの感染を防ぐために色々な安全対策に一生懸命取り組んでいます。自分と他人を守るため、距離を置いて人と接し、外出…かなり制限をしなければなりません。それと同じように私たちの信仰を生き、豊かにするためにも色々な「制限と対策」が必要だと気づかされました。体を守るために一生懸命やっていますが、魂を守るために努力しているのか問われました。

弱い人間である私たちは、いつも誰かに頼る必要を感じていると思います。普段の生活の中で、人間は何らかの形でお金や物資的なものに頼りがちですが、このパンデミックを通して、神様だけが本当に私たちの頼りになる方だと再び気づかされました。このパンデミックを通して神様が私たちに何か呼び掛けられていると思います。私たちの創立者がよく強調されていた『信仰の目で物事を見る』ということが思い出されます。これからもこの言葉を心に留め、祈り、生きることが出来ますようお願いしつつ…



▲'20年終生誓願準備コースに参加したメンバー



1817年に創立されたマリア会は、「聖母青年会」を土台に発展した修道会です。「聖母青年会」の目的は「福音に生かされたダイナミックな共同体」を生きることでした。この目的達成のため、青年

たちが選んだ手段は教育でした。このことについては前回と前々回の「マリアニスト教育200年」の所で述べました。今回は「聖母青年会」とマリア会がこの目的を達成した過程について述べます。

1799年、総裁政府に替わり統領政府を樹立したナポレオンは新しい憲法を制定し、カトリック教会を味方にして人心を掌握します。その結果カトリック教会は息を吹き返し、海外に亡命していた多くの聖職者も祖国に戻りました。シャミナード神父やアデルも例外ではありませんでした。帰国後、数ヵ月にしてシャミナード神父は「聖母青年会」を結成、12名の若者が師の計画に賛同し、神に身を捧げました。1801年、ナポレオンはローマ教皇ピオ7世とコンコルダを締結し、王党派や農民、保守派の支持を取り付けました。また「公教育一般法」を制定し、教育と慈善事業を奨励しました。このような時代の流れを受けて、教職の経験があった聖母青年会員レイ・ラファルグ(30歳)とダルビニャックはさっそく教育に従事しました。

1804年に皇帝となったナポレオンは帝政を開始しました。そして人民法典『ナポレオン法典』を發布します。さらに『ユニベルシテ』を設立し、初等教育の均衡と宗教、君主、祖国、家族に愛着を持つ市民からなる国家形成を諮り、修道会経営の学校をユニベルシテの傘下に置きました。ナポレオンは皇帝崇拝のためカトリック教会を利用し、初等教育はラサール会に委ねました。

1815年、ナポレオンによる百日天下が終わると、ブルボン朝が政権を取り、第二次復古政治が始まりました。皇帝に代わり国王崇拝に替わりました。キリストの十字架像と国王の胸像が共に飾られ、神と国王、同胞への義務感を植え付ける目的でカトリック教育が認められました。マリア会をはじめ多くの教育修道会や慈善事業の単式修道会が認められたのもこの時代です。

一方、産業革命が盛んとなり、ブルジョア階級による教育への期待が深まりました。商業地ボルドーではその期待をマリア会に求めました。その後、産業革命が急激に進むとブルジョア階級が貴族・聖職者と対立することになりました。これが7月革命です。ブルボン朝に代わり革新貴族オルレアン朝に移りました。

1833年ギゾー法が成立してからは公教育が浸透し、多くの学校が設立されました。1825年、38000のコミュン(自治共同体)が存在した中で14000のコミュンには学校がありませんでした。しかしギゾー法が成立した後の1837年、学校なしのコミュンは5600に減少しました。さらに1850年、カトリック教会に有利なファール法が制定されるとイエズス会をはじめとして多くのカトリック系私立学校がエリート校として発展しました。当時、800名の会員を有したマリア会もフランス各地に学校を新設しました。管区もボルドー管区、アルザス管区、フランシュ・コンテ管区、ミディ管区の4つに増え発展していきました。しかしこの後、普仏戦争やフェリー法の制定により、マリア会は苦境の時代を迎え窮地に陥ります。



絆を見つめる時

アリانس・マリアル 田中正江

6月の半ばに菊地大司教様から、一定の条件の下で公開ミサが行うことが通達され、私の所属教会でも公開ミサが開始しましたが、そのミサに参加する為の条件は私達所属信徒にとって、かなり厳しいものでした。特に私が所属している小教区は共同体としての絆よりも、ミサの参加だけを目的に参加している人達が非常に多く、絆も表面的なその場限りのものだったことは否定できません。

私自身医療機関に勤めていて、心身共に余裕がないので、ミサの参加以上に求められない気楽さの中で、共同体の為に何もして来ませんでした。その様な中で、コロナウィルスの感染予防の為にミサの参加条件を教会提示された時、私は初めて、自分と小教区との関係、そこに集う人達との絆について、真剣に考え、向き合うようになりました。そして、小教区の奉仕活動を始め、改めて同じ教会の信徒の人達の存在と向き合う機会を与えられました。主任司祭と同様に、私自身も自分と同様、

一緒にミサに参加する絆を持っていない人があまりに多いことを実感しました。

「一緒にいても、一緒に行動していても、実際は孤独」という社会の現象が全く同じように存在していたのです。この様な状況とどの様に向かい合い、神様の望みに従って歩みを進めていけばよいか、私にはまだ答えは出ていません。

ただ、コロナウィルスの感染の問題が起これなければ、仕事とマリアニストとしての日々の中で、自分が長年共にミサや祈りを捧げてきた小教区の信徒の人達との関係はずっとその場限りだけで終わっていたでしょう。今は、菊地大司教様の「ミサのある教会を求めて、移動することをお控えください。ご自分の所属教会、または共同体の一員となっている教会の指示に従ってください」という言葉に従いながら、現在は私が飛躍する為に、神様がコロナウィルスを通して、私に与えられた「絆を見つめる時」と感じています。

豆知識



FMIの新しいロゴ



汚れなきマリア修道会
Sr.小林 幾久子

今年の10月1日から、私たちは誰であるのか、私たちの価値観、私たちの生き方を示すシンボルとしてのロゴを新しくしました。線の厚み、縁の丸み、色はマリアニストの女性であることを示しています。

マリアとの契約：二重の輪は、マリアと私たちの相互契約を意味しています。大きな輪は、マリアが私たちと結ぶ契約、小さな輪は、マリアの呼びかけを受け入れ、彼女と契約を結ぶ私たちを意味しています。私たちの契約は、先に私たちを呼び出し、私たちをご自分の使命に参与させようと望まれたマリアの呼びかけへの応えです。私たちの契約は、マリアの契約によって守られ、支えられています（外側の輪）。マリアとの契約の中心は、キリストです。そして受肉の神秘におけ

るマリアの使命を延長するようにと私たちを招いています。

共同体：さまざまな色や形は、私たちがイエスに従うために共に歩む共同体、道、多様性の一致を表しています。

共通の家の保全：青、緑、黄色は私たちの惑星と創造を想起させます。私たちはその一部です。マリアニストとしての私たちの使命は、私たち自身の共同体から始めて、生命を守り、正義と平和を刷新し、支援することです。「すべてが繋がっている」ことを認識し（LS 16）、私たちは、神と他の人々、造られた全てのものが、神と共に交わりの内に生きることが出来る愛の輪である世界を構築するよう努めます。

開き：円は、マリアニスト家族、教会、そして神の国の到来のために他者と協力するために開かれています。

◎MLCからのお知らせ

MLCとしてのホームページがあります。
スマホのスタイルで手軽に見ることができます。
URL：<https://www.cafemlc.org>
ホーム（MLCの年間目標、チャレンジ目標、養成プログラム…）、
お知らせ、マリアニストの祈り、ブログ、動画
などがご覧になれます。
MLCを紹介するときなどに、ご活用ください。

■発行：日本マリアニスト家族評議会

問い合わせメール：marianist@marianist.jp

ホームページ：<http://www.marianist.jp/>

